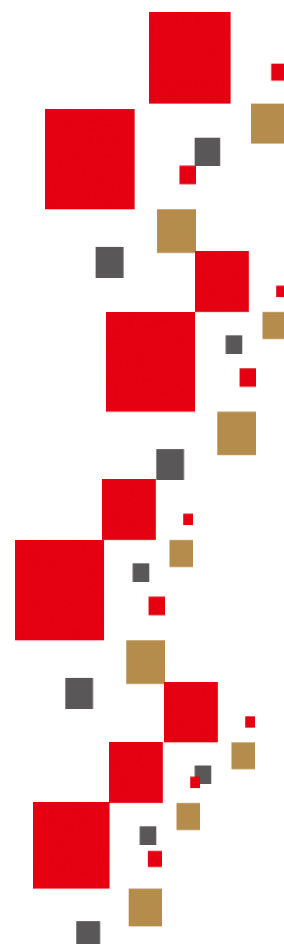


株式会社ダイキアクシス・サステイナブル・パワー

ポジティブインパクトファイナンス
モニタリング実施報告書（2024 年度）

2025 年 6 月 25 日

株式会社愛媛銀行
企画広報部 ひめぎん情報センター





1. モニタリング対象

企業名	株式会社ダイキアクシス・サステイナブル・パワー
融資実行日	2024 年 1 月 31 日
モニタリング直近実施日	2025 年 3 月 27 日

2. モニタリング結果

本モニタリングにおいて、株式会社ダイキアクシス・サステイナブル・パワーは、再生可能エネルギー（太陽光、小形風力）の導入やバイオディーゼル燃料（BDF）の供給拡大、働き方改革を通じて、環境・社会・経済の各インパクト領域におけるポジティブな取組みを継続していることが確認されました。現状の事業環境や方針転換により、定量的な KPI 達成には一部課題も見られますが、全体として持続可能性への意識は高く、当行との対話を通じた見直しやフォローアップの必要性が共有されています。持続可能性と両立する形で、同社による事業方針の見直しや重点の転換が進行しており、当行も引き続き、モニタリングを踏まえた柔軟な対応と、伴走型の支援を続けてまいります。

3. KPI 実績と取組状況

① 環境・社会・経済の統合的向上に資する事業

KPI	目標	実績
太陽光発電設備容量	2025 年度に 50MW	33.7MW (2023 年 12 月期) 36.0MW (2024 年 12 月期)
小形風力発電総発電量	2025 年度に 580MWh	466MWh (2023 年 12 月期) 502MWh (2024 年 12 月期)
D・Oil 販売量	2025 年度に 394,000 ℓ	169,220 ℓ (2023 年 12 月期) 155,617 ℓ (2024 年 12 月期)
B5 軽油販売量	2025 年度に 4,360,000 ℓ	1,473,781 ℓ (2023 年 12 月期) 1,449,362 ℓ (2024 年 12 月期)

【取組みの進捗状況】

- ・太陽光発電については、PPA および FIT セカンダリーの取得を進めており、設備容量は着実に拡大しています。PPA については、引き続き大口需要家の開拓を進めていく方針です。
- ・小形風力発電については、総発電量が着実に伸長しています。引き続き、用地取得と発電設備の追加を進める方針です。また、50kW 級風車の導入も検討されています。
- ・BDF 事業では、2024 年 4 月に東日本事業所を開設し、同年 11 月から製造プラントを本格稼働させました。



これにより、東日本エリアでの生産拠点が確立されました。現状では、D・Oil はニーズが限定的で販売先が限られていますが、同年より一部空港の構内作業車向けに D・OilN の供給が開始されましたので、今後は D・OilN の販売量が少しずつ増加する見通しとなっています。

- ・ B5 軽油については、製造プラントの本格稼働や国の実証事業への供給により、今後、販売量が増加する見通しです。同社では、全国各地で実施している実証事業が社会的な認知向上につながり、それに伴って販売量のさらなる増加が期待できるとしています。

【当行所見・今後のフォロー】

- ・ 再エネ分野における取組みは、地域や社会への貢献度も高く、引き続き注目される取組みであると受け止めています。今後も目標に対する実行可能性を見極めるとともに、事業の展開ペースに応じた KPI の見直しも視野に入れつつ、当行としては需要家開拓の進捗や設備導入に向けた後方支援を柔軟に検討してまいります。
- ・ 市場動向や販売チャネルの変化に応じて柔軟に事業方針を調整されていることを前向きに受け止めています。一方で、設定されている KPI (D・Oil 販売量) との整合性を今後どう保っていくかは重要な論点と認識しております。当行としては、D・Oil と B5 軽油の相関整理や指標の見直し支援、また、販路開拓に向けた行政・企業ネットワークの活用支援なども含め、引き続き対話を深めてまいります。

② 働きやすい労働環境づくり

KPI	目標	実績
年次有給休暇取得率	2025 年度に 50%	31.4% (2023 年 12 月期) 48.3% (2024 年 12 月期)

【取組みの進捗状況】

- ・ 年次有給休暇の取得率は順調に推移しており、目標達成も視野に入っています。さらに、テレワークを活用した柔軟な働き方の促進も進んでおり、従業員のワークライフバランス向上に向けた取組みも進められています。

【当行所見・今後のフォロー】

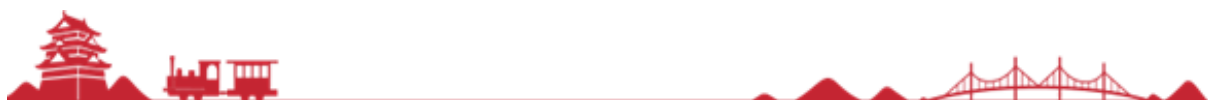
- ・ こうした取組みは、企業文化や人材定着といった面でも良い影響が期待され、他社の参考にもなり得る好事例であると受け止めています。引き続き、当行としては、人的資本経営や人的資本開示といった観点からの情報提供や整理支援も行っていければ良いと考えます。

③ 環境に配慮した事業活動の推進

KPI	目標	実績
CO ₂ 排出量の低減	2025 年度までに定量目標を設定	グループ全体で調整中

【取組みの進捗状況】

- ・ 同社では、(株)ダイキアクシスグループの方針と合わせて「2050 年カーボンニュートラル」を目標としている一方で、短中期の具体的な数値目標はグループ全体で調整中となっています。



【当行所見・今後のフォロー】

- ・グループとして長期目標に明確にコミットされている点は、サステナビリティ経営を推進するうえで非常に重要な一歩と受け止めています。そのうえで、現場レベルでの具体的な行動計画や進捗管理に活かしていくためには、短中期の定量的な設定が引き続き課題となると考えます。当行としては、排出量削減の手法整理や他社事例の紹介、必要に応じた外部アドバイザーの提案等を通じて、現場で取り組みやすい目標の段階的な設定を後押ししてまいります。

